

# 鉢物用マーガレット‘シルクボール’、‘ホワイトリップルピュア’

## および‘キャンディマイス’の育成<sup>†1</sup>

稲葉 善太郎<sup>†2</sup>

農林技術研究所森林・伊豆農業研究センター

### Breeding of new *Argyranthemum* cultivars Silk Ball, White Ripple Pure, and Candy Mais for pot plants

Zentaro Inaba

Izu Agricultural Research Center / Shizuoka Res.Inst.of Agric.and For.

#### Abstract

New *Argyranthemum* cultivars were successfully created, and called ‘Silk Ball’, ‘White Ripple Pure’ and ‘Candy Mais’ for pot plants and registered with the Plant Variety Registration System in Japan. The cultivar ‘Silk Ball’ was characterized by very small and double flower heads with white ray florets. ‘Silk Ball’ was shown to be a high quality potted flower. The flowering time of ‘Silk Ball’ begins before the end of the year. The cultivar ‘White Ripple Pure’ was characterized by very small and single flower heads with white ray florets. ‘White Ripple Pure’ has a spreading plant habit and is a high quality potted flower. The flowering time of ‘White Ripple Pure’ begins from early autumn. The cultivar ‘Candy mais’ was characterized by small, single flower heads with deep pink ray florets. ‘Candy mais’ has a spreading plant habit and is also a high quality potted flower. The flowering time of ‘Candy Mais’ begins after January.

キーワード：鉢物, 品種, マーガレット

## I 緒 言

マーガレットは、スペイン領カナリア諸島<sup>1)</sup>とポルトガル領マデイラ諸島<sup>2)</sup>を原産とし、23種<sup>3)</sup>または24種<sup>2)</sup>があるとされ、原種の多くは一重咲きの白花である<sup>1,2)</sup>。

マーガレットは、1969年に原産地からヨーロッパに導入され、ビクトリア王朝時代には庭園の植物として広まった<sup>13)</sup>。1990年の大阪花博を期に日本ではマーガレットの植栽利用が広まったとされている。その後起こったガーデニングブームでは、イングリッシュガーデンの花壇材料<sup>3)</sup>として利用されるとともに、海外から多くの鉢物・花壇用品種が紹介・導入され<sup>3,13,14)</sup>、品種登録も行われるとともに<sup>11)</sup>、静岡県東部地域の生産者から鉢物用マーガレットの育成が要望されるようになった。

それまで、農林技術研究所伊豆農業研究センターでは、前身である静岡県有用植物園時代の1960年代よりマーガレット

の品種育成・導入を行ってきたが、これは南伊豆地域でのマーガレットの切り花生産振興を目的としたものであり、植栽や鉢物利用を目的とした選抜は行われてこなかった。

その後、白花・一重咲きの鉢物用品種‘ホワイトリップル’の育成<sup>6)</sup>を契機に、‘スイートリップル’、‘サンデーリップル’<sup>8)</sup>、‘チェリルマイス’および‘レディマイス’<sup>7)</sup>等の鉢物用品種の育成を進めてきた。しかし、産地からは草姿や花型および花色についてのさらなるシリーズ化の要望があるため、極わい性、八重咲き、白花の‘シルクボール’、極わい性、一重咲き、白花の‘ホワイトリップルピュア’およびわい性、一重咲き、濃桃花の‘キャンディマイス’を育成したので、それらの育成経過と特性について報告する。

## II 材料及び方法

<sup>†1</sup> 本報告の一部は平成19年度園芸学会東海支部大会において発表した(2007年8月, 静岡市)

<sup>†2</sup> 現静岡県賀茂農林事務所

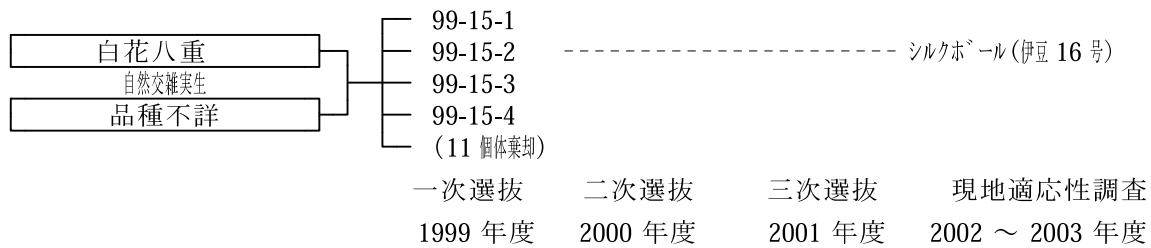


図1 ‘シルクボール’の育成系統図

1 ‘シルクボール’の育成

一次選抜:1999年6~7月に静岡県農業試験場南伊豆分場(現伊豆農業研究センター南伊豆圃場,以下南伊豆圃場,賀茂郡南伊豆町)のガラス温室内において,白花八重の自然交雑した頭状花216個を採種した。11月8日に播種し,育苗用ガラス温室内で発芽させ,発芽した15個体を,2000年2月29日にガラス温室内に定植した。草姿,開花期等を中心に選抜を行った。

二次選抜:一次選抜した4系統を供試し,南伊豆圃場内のガラス温室で行った。対照品種として‘在来白’,‘伊豆マグ85’および‘ホワイトリップル’を用いた。供試品種は,2000年6月28日に挿し芽,7月14日に定植し,8月3日に摘心した。草姿,花型,開花時期および鉢物としての特性を調査した。試験規模は1区4株とした。

三次選抜:二次選抜した3系統を供試し,南伊豆圃場内のガラス温室で行った。対照品種として‘在来白’,‘伊豆マグ85’および‘ホワイトリップル’を用いた。2001年6月14日に挿し芽,6月25日に定植し,7月27日に摘心した。草姿,花型,開花時期および鉢物としての特性を調査した。試験規模は1区4株とした。

現地適応性:育成系統‘99-15-2’を2002年6月5日に挿し芽し,6月21日に鉢上げ後,沼津市,伊豆の国市,富士市および富士宮市の生産者に引き渡した。翌年は生産者圃場において,自家育苗による2月下旬定植の作型で調査した。兩年ともに,摘心等の栽培管理は各生産者の慣行によった。草姿,草丈,開花時期等を観察調査した。対照品種として‘サンデーリップル’および‘スイートリップル’を供試した。

2 ‘ホワイトリップルピュア’の育成

一次選抜:2001年4~6月に南伊豆圃場のガラス温室内において,育成系統‘99-15-2(後の‘シルクボール’)’の自然交雑した頭状花35個を採種した。8月6日に播種し,育苗用ガラス温室内で発芽させ,発芽した12個体を,2001年12月7日にガラス温室内に定植した。草姿,開花期等を中心に選抜を行った。

二次選抜:一次選抜した1系統を供試し,南伊豆圃場内のガラス温室で行った。対照品種として‘在来白’,‘伊豆マグ85’および‘ホワイトリップル’を用いた。供試品種は,2002年6月5日に挿し芽,6月21日に定植し,7月25日に摘心した。草姿,花型,開花時期および鉢物としての特性を調査した。試験規模は1区4株とした。

三次選抜:二次選抜した1系統を供試し,南伊豆圃場内のガラス温室で行った。対照品種として‘在来白’,‘伊豆マグ85’および‘ホワイトリップル’を用いた。2003年7月17日に挿し芽,7月31日に定植した。摘心は行わなかった。草姿,花型,開花時期および鉢物としての特性を調査した。試験規模は1区4株とした。

現地適応性:育成系統‘01-15-1’を2003年6月19日に挿し芽し,6月23日に鉢上げした。鉢上げ後,沼津市,伊豆の国市,富士市,富士宮市および下田市の計5か所の鉢物生産者に引き渡した。引き渡し後,摘心等の栽培管理は各生産者の慣行によった。草姿,草丈,開花時期等を観察調査した。対照品種として‘サンデーリップル’および‘スイートリップル’を供試した。

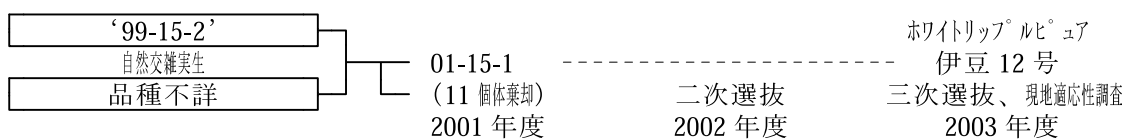


図2 ‘ホワイトリップルピュア’の育成系統図



図3 ‘キャンディマイス’の育成系統図

表1 ‘シルクボール’の生育開花特性(2000年度)<sup>z</sup>

系統名	草型	草丈	葉の形質				葉色 <sup>y</sup>	開花開始	花径	花型	花 色		選抜 <sup>x</sup>
			葉片幅	葉の欠刻	葉身長	葉身幅					舌状花	管状花	
シルクボール	広	短	狭	深	短	狭	濃緑	11月上	極小	八重	白	黄	B
在来白 <sup>w</sup>	中	中	中	深	中	中	濃緑	10月下	中	一重	白	黄	—
伊豆マグ85 <sup>w</sup>	狭	長	中	深	中	広	緑	1月中	中	一重	白	黄	—
ホワイトリップ <sup>w</sup>	狭	中	狭	深	短	中	灰緑	9月下	中	一重	白	黄	—

<sup>z</sup> 生育特性は種苗分類調査報告書(マーガレット)による栽培期間中の観察調査

<sup>y</sup> 葉色は‘在来白’(濃緑)を基準とした場合の濃淡等による観察調査

<sup>x</sup> 選抜基準、A:切花用、B:鉢物(花壇)用、C:交配素材、×:棄却

<sup>w</sup> 対照品種

### 3. ‘キャンディマイス’の育成

一次選抜:2002年4~6月に南伊豆圃場のガラス温室において、育成系統‘00-129-2’の自然交雑した頭状花102個を採種した。8月29日に播種し、育苗用ガラス温室内で発芽させ、発芽した51個体を、10月4日にガラス温室内に定植した。草姿、開花期等を中心に選抜を行った。

二次選抜:一次選抜した3系統を供試し、南伊豆圃場内のガラス温室で行った。対照品種として‘在来白’、および‘伊豆マグ85’および‘ホワイトトリプル’を用いた。供試品種は、2003年7月17日に挿し芽、7月31日に定植した。摘心は行わなかった。草姿、花型、開花時期および鉢物としての特性を調査した。試験規模は1区4株とした。

三次選抜:二次選抜した1系統を供試し、南伊豆圃場内のガラス温室で行った。対照品種として‘エンジェルマイス’および‘フェアリーライトピンク’を用いた。2004年6月29日に挿し芽、7月23日に定植した。摘心は行わなかった。草姿、花型、開花時期および鉢物としての特性を調査した。試験規模は1区4株とした。

現地適応性:育成系統‘03-7-3’を2004年5月14日に挿し芽し、5月30日に鉢上げした。鉢上げ後、沼津市、伊豆の国市、富士市、富士宮市および下田市の計5か所の鉢物生産者に引き渡した。引き渡し後、摘心等の栽培管理は各生産者の慣行によった。草姿、草丈、開花時期等を観察調査した。対照品種として‘サンデーリップ’および‘スイートリップ’を供試した。

## III 結 果

### 1. ‘シルクボール’の選抜経過と特性

‘シルクボール’の育成経過を図1に示した。

一次選抜:1999年度に南伊豆圃場において、39組合せ(自然交雑実生を含む)の交配を実施して実生を獲得、同年度にこれらは種して1,414の実生個体を得た。これらのうち保存系統‘白花八重’の自然交雑実生15個体から4個体を選抜して、‘99-15-1’から‘99-15-4’の系統名を付与した。

二次選抜:2000年度の二次選抜において、11月上旬から開花する極小輪、八重咲きの白花で、草丈が低く、鉢物向けの草姿の‘99-15-2’を選抜した(図1,表1)。

三次選抜:2001年度の三次選抜において、‘99-15-2’は10月中旬から開花する八重咲きの白花で、極わい性の花型で鉢物向けとして優れた特性を持つことが確認された(データ省略)。

現地適応性:‘99-15-2’現地適応性調査を2002年および2003年に行った(表2)。2002年の調査では、10月中旬から開花する極小輪、八重咲きの白花で、花が球状に開花する特性が確認されたが、増殖がやや困難とのことであった。2003年の調査は、生産者圃場における2月下旬定植作型で実施した。花型、草姿については前年と同様の特性が確認された。その結果、‘99-15-2’は、育成系統候補‘伊豆16’として、2004年7月に育成を完了した。

生育特性:‘伊豆16号(99-15-2)’は11月上旬から開花する極小輪タイプの八重咲き白花で、極わい性で鉢物向けの草姿である(写真1)。開花時期は‘在来白’および‘ホワイトトリプル’より

表2 ‘シルクボール’の現地試験における評価(2003年度)<sup>2</sup>

系統名	花色	花型	花径	草丈	開花開始 <sup>3</sup>	現地生産者 <sup>4</sup> の観察状況	評価 <sup>5</sup>
シルクボール	白	八重	極小	中	3月下	花型が特徴的(ボンボン咲き)、極わい性のため矮化剤が不要(Z、Y、X、W、V)、挿し芽の発根遅い(X、W)	○
サンデーリップル <sup>6</sup>	白	一重	小	中	3月下	対照品種	—
スイートリップル <sup>6</sup>	白	八重	小	中	4月上	対照品種	—

<sup>2</sup> 花径、草丈等の特性は‘在来白’を基準に記載(特性調査基準に準拠)、作型は2月下旬鉢上げ

<sup>3</sup> 2月下旬定植の作型における開花時期

<sup>4</sup> 沼津市(Z)、菫山町(Y)、富士市(X)、富士宮市(W)、下田市(V)

<sup>5</sup> 評価、×:適さない、△:やや適する、○:有望

<sup>6</sup> 対照品種

遅く、‘伊豆マグ85’より早く開花する。八重咲きで花が球状に開花する白花で、極わい性でわい化剤無しでもコンパクトな草姿となる。

品種登録:‘伊豆15号’は、鉢物向け品種登録に向け、品種名を‘シルクボール’に決定後、2004年9月27日付けで品種登録を出願し、2005年11月28日に出願公表(第17494号)され、2007年3月2日付けで品種登録された(第14970号)。

## 2. ‘ホワイトリップルピュア’の選抜経過と特性

‘ホワイトリップルピュア’の育成経過を図2に示した。

一次選抜:2001年度に南伊豆圃場において、47組合せ(自然交雑実生を含む)の交配を実施して実生を獲得、同年度にこれをは種して2,853の実生個体を得た。これらのうち育成系統‘99-15-2’の自然交雑実生12個体から1個体を選抜して、‘01-15-1’の系統名を付与した。

二次選抜:2002年度の二次選抜において、‘01-15-1’は極小輪、一重咲きの白花で、草丈が低く、鉢物向けの草姿であることが確認された(図2,表3)。

三次選抜:2003年度の三次選抜において、‘01-15-1’は9月下旬から開花する一重咲きの白花で、極わい性の花型で鉢物向けとして優れた特性を持つことが確認された(データ省略)。

現地適応性:‘01-15-1’の現地適応性調査を2003年に行った(表4)。その結果、10月上旬から開花する極小輪、一重咲きの白花で、草丈が低くわい性であるが、高温時の生育が良く、鉢物や花壇材料としての有望性が確認された。このため、‘01-15-

1’を育成系統候補‘伊豆12号’として2004年7月に育成を完了した。

生育特性:‘伊豆12号(01-15-1)’は9月下旬から開花する極小輪タイプの白花で、わい性で鉢物向けの草姿である(写真2)。二次選抜時点での開花時期は9月下旬で‘ホワイトリップル’と同時期で、‘在来白’および‘伊豆マグ85’より早く開花することが認められている。

品種登録:‘伊豆12号’は、鉢物向け品種登録に向け、品種名を‘ホワイトリップルピュア’に決定後、2004年9月27日付けで品種登録を出願し、2005年6月23日に出願公表(第17496号)され、2007年3月15日付けで品種登録された(第15198号)。

## 3. ‘キャンディマイズ’の選抜経過と特性

‘キャンディマイズ’の育成経過を図3に示した。

一次選抜:2002年度に南伊豆圃場において、59交配組合せ(自然交雑実生を含む)で交配を実施して実生を獲得、同年度にこれをは種して4,304の実生個体を得た。このうち、数世代前の種子親に‘在来白’を使用した育成系統‘00-129-2’の自然交雑実生51個体から3個体を選抜して、‘02-7-1’から‘02-7-3’の系統名を付与した。

二次選抜:2003年度の二次選抜において、12月中旬から開花する小輪タイプの濃桃花で、わい性で鉢物向けの草姿であることが認められた‘02-7-3’を選抜した(図3,データ省略)。

三次選抜:2004年度の三次選抜において、‘02-7-3’は年内に開花が認められなかったものの、わい性で鉢物向けの草姿で

表3 ‘ホワイトリップルピュア’の生育開花特性(2002年度)<sup>2</sup>

系統名	草型	草丈	葉の形質					開花開始	花径	花型	花 色		選抜 <sup>4</sup>
			葉片幅	葉の欠刻	葉身長	葉身幅	葉色 <sup>3</sup>				舌状花	管状花	
ホワイトリップルピュア	広	短	狭	深	短	中	灰緑	9月下	極小	一重	白	黄	B
在来白 <sup>5</sup>	中	中	中	深	中	中	濃緑	10月下	中	一重	白	黄	—
伊豆マグ85 <sup>5</sup>	狭	長	中	深	中	広	緑	1月中	中	一重	白	黄	—
ホワイトリップル <sup>6</sup>	狭	中	狭	深	短	中	灰緑	9月下	中	一重	白	黄	—

<sup>2</sup> 生育特性は種苗分類調査報告書(マーガレット)による栽培期間中の観察調査

<sup>3</sup> 葉色は‘在来白’(濃緑)を基準とした場合の濃淡等による観察調査

<sup>4</sup> 選抜基準、A:切花用、B:鉢物(花壇)用、C:交配素材、×:棄却

<sup>5</sup> 対照品種

表4 ‘ホワイトトリプルピュア’の現地試験における評価(2003年度)<sup>z</sup>

系統名	花色	花型	花径	草丈	開花開始	現地生産者 <sup>y</sup> の観察状況	評価 <sup>x</sup>
ホワイトトリプルピュア	白	一重	極小	短	10月上	開花早い(Z、Y、X、W)、わい性(Z、Y、X、W、V)、高温時の生育良い(Z、Y、X)	○
サンデーリップル	白	一重	小	中	9月下	対照品種	—
スイートリップル	白	八重	小	中	11月上	対照品種	—

<sup>z</sup> 花径、草丈等の特性は‘在来白’を基準に記載(特性調査基準に準拠)

<sup>y</sup> 沼津市(Z)、菫山町(Y)、富士市(X)、富士宮市(W)、下田市(V)

<sup>x</sup> 評価、×：適さない、△：やや適する、○：有望  
あることが認められた(表5)

現地適応性:‘02-7-3’の現地適応性調査を2004年に行った(表6)。その結果、6月定植作型において開花時期が12月以降と遅いが、小輪タイプの濃桃花で、株元から広がりやすい鉢物向けの草姿であった。このため、‘02-7-3’を育成系統候補‘伊豆22号’として2005年7月に育成を完了した。

生育特性:‘伊豆22号(02-7-3)’は小輪タイプの濃桃花の一重咲きで鉢物向けの草姿である(写真3)。慣行の6月定植作型における開花は1月と‘エンジェルマイス’および‘フェアリーライトピンク’よりも遅い。草丈が低く株が広がりやすいので、鉢物栽培に適する(表5)。

品種登録:‘伊豆22号’は、鉢物向け品種登録に向け、品種名を‘キャンディマイス’に決定後、2005年11月7日付けで品種登録を出願し、2006年6月12日に出願公表(第18973号)され、2008年3月13日付けで品種登録された(第16567号)<sup>10</sup>。

## IV 考 察

### 1. ‘シルクボール’

保存品種‘白花八重’を種子親として‘シルクボール’を育成した。‘シルクボール’の二次選抜時に得られた種子を播種することで‘ホワイトトリプルピュア’が育成された。‘白花八重’は、花壇向けの八重咲き、白花品種であり、八重咲き品種を育成するために種子親として利用した。

‘シルクボール’の一次選抜では、1999年11月に播種しており、現地で重要となる夏越し後の開花時期が不明であるため、花型と草姿のみで観察評価し、‘99-15-1’～‘99-15-4’の4系統を選抜した。2000年度に二次選抜を行った。この時点での観察では、育成系統‘99-15-1’および‘99-15-2’が極わい性の草丈で、花型が球状に咲く特徴的な形質であった。このうち、‘99-15-2’は開花開始時期が、二次選抜では11月上旬、三次

表5 ‘キャンディマイス’の生育開花特性(2004年度)<sup>z</sup>

系統名	草型	草丈	葉の形質					葉色 <sup>y</sup>	開花開始	花径	花型	花 色		w 選抜
			葉片幅	葉の欠刻	葉身長	葉身幅	舌状花					管状花		
キャンディマイス	広	中	極狭	深	短	狭	灰緑	1月	極小	一重	鮮赤紫	赤	B	
エンジェルマイス <sup>x</sup>	広	長	狭	深	短	中	灰緑	11月下	小	一重	桃	黄	—	
フェアリーライトピンク <sup>x</sup>	中	長	狭	深	短	中	緑	11月下	小	一重	淡桃	黄	—	

<sup>z</sup> 生育特性は種苗分類調査報告書(マーガレット)による栽培期間中の観察調査

<sup>y</sup> 葉色は‘在来白’(濃緑)を基準とした場合の濃淡等による観察調査

<sup>x</sup> 対照品種

<sup>w</sup> B：鉢物(花壇)用として選抜

表6 ‘キャンディマイス’の現地適応性評価の概要(2004年度)<sup>z</sup>

系統名	花色	花型	花径	草丈	開花開始 <sup>y</sup>	現地生産者 <sup>x</sup> の観察状況	評価 <sup>w</sup>
キャンディマイス	濃桃	一重	小	短	12月中	草姿が整っている(Z、Y、W)、開花が遅い(V)、春先に好まれる花色(X)。	○
サンデーリップル	白	一重	小	中	10月上	対照品種	—
スイートリップル	白	八重	小	中	11月中	対照品種	—

<sup>z</sup> 花径、草丈等の特性は‘在来白’を基準に記載(特性調査基準に準拠)、作型は6月挿し芽。

<sup>y</sup> 7月定植の作型(3.5号ポリポット栽培)における開花時期

<sup>x</sup> 沼津市(Z)、菫山町(Y)、富士市(X)、富士宮市(W)、下田市(V)

<sup>w</sup> 評価、×：適さない、△：やや適する、○：有望

選抜では10月中旬と年内から開花したことから年内出荷も可能と考えられた。

‘99-15-2’は、これまでにない特徴的な花型であり、花型の多様性を広げることが可能であるため、三次選抜終了後の2002年度に、県内5市町の生産者により現地適応性を調査した。その結果、10月中旬からの開花が認められ、極わい性の草姿と球状に咲く花型(通称:ポンポン咲き)が評価された。草姿の点ではわい化剤などを使わなくても鉢物用としての栽培が可能になると評価された。しかし、挿し芽後の発根が遅く、増殖性に難があるため、産地での継続調査を行うこととなった。2004年度には、産地での増殖を踏まえて2月下旬定植の作型で調査を行ったところ、2002年度と同様の評価であった。産地では、数年間の試作を踏まえて生育特性が把握できたことから、品種登録が要望された。

## 2. ‘ホワイトリップルピュア’

前述のとおり、‘ホワイトリップルピュア’は、‘シルクボール’の自然実生である。‘ホワイトリップルピュア’の一次選抜では、2001年8月6日に播種しており、現地で重要となる夏越し後の開花時期が不明であるため、花型と草姿のみで観察評価し、‘01-15-1’を選抜した。2002年度に二次選抜、2003年度に三次選抜を行った。この時点での観察では、育成系統‘01-15-1’が極小輪、一重咲きの白花で、わい性の鉢物向けの草姿であった。‘01-15-2’は開花開始時期が、二次選抜では9月下旬、三次選抜では10月上旬と開花時期が早かったことから年内に安定して出荷することが可能と考えられた。

‘01-15-1’は、二次選抜においてわい性で鉢物向けの草姿が評価されたことから2003年度に三次選抜と並行して現地適応性を調査した。その結果、高温時の生育が良く、わい性で鉢物や花壇材料としての適応性が認められた。特に、育成品種‘ホワイトリップル’と同じ一重咲きの花型で、よりわい性の草姿であるため後継品種として有望であると評価されたことから、産地では、品種登録が要望された。

## 3. ‘キャンディマイス’

‘キャンディマイス’は、育成系統‘00-129-2’を種子親とした自然交雑実生である。‘00-129-2’(桃花, 小輪, 一重咲き)は、放射線を利用した育種素材開発のために静岡県農業試験場生物工学部(現静岡県農林技術研究所 育種科; 静岡県磐田市富丘)において育成された。‘キャンディマイス’の一次選抜では、2002年8月29日に播種しており、現地で重要となる夏越し後の開花時期が不明であるため、花型と草姿のみで観察評価し、わい性で鉢物向けの草姿の‘02-7-3’を選抜した。2003年度に二次選抜、2004年度に三次選抜を行った。この時点での観察では、育成系統‘02-7-3’は極小輪、一重咲きの

赤みがかつた濃桃花で、わい性の鉢物向けの草姿であった。‘02-7-3’は開花開始時期が、二次選抜では12月中旬、三次選抜では1月と開花時期が遅かったが、これまでに育成した品種にはない濃桃花の花色とわい性で鉢物向けの草姿で、品種の多様化をすすめることが可能と考えられた。

‘02-7-3’は、二次、三次選抜(2003~2004年)においてわい性で鉢物向けの草姿が評価された。両年の選抜と並行して現地適応性を調査した。その結果、6月挿し芽での栽培であっても開花時期は1月以降と遅いものの、春咲きに好まれる濃い桃色の花色とわい性で鉢物向けの草姿が高く評価された。なお、‘キャンディマイス’は選抜時の観察結果のとおり、鉢物向けとして2006フラワー&ガーデンショー(2006年3月開催)において園芸文化協会長賞を受賞した。

## 4. 品種登録出願と評価

品種登録のための特性調査においては、‘シルクボール(99-15-2)’には類似する花型がなく‘白花八重’および‘ホワイトムーン’の2品種と比較した。両品種と比べても草丈が低いこと、花型が異なることなど明確な違いがみられた。開花開始時期も二次選抜では11月上旬(2000年)、三次選抜では10月中旬(2001年)であることから、比較的早い時期からの出荷が可能であると推察された。

‘ホワイトリップルピュア(01-15-1)’は、現地で栽培している‘サンデーリップル’および‘スイートリップル’の2品種と比較した。‘ホワイトリップルピュア’は両品種と比べても草丈が低いこと、花径が小さいことなどで明確な違いがみられた。開花開始時期も二次選抜では9月下旬(2002年)、三次選抜では10月上旬(2003年)であることから、早期出荷向けの鉢物、花壇向け品種として有望であると考えられた。

‘キャンディマイス(02-7-3)’は比較的花型の類似した‘エンジェルマイス’および‘フェアリーライトピンク’と比較した。両品種と比較して、草丈が低く、開花時期が遅いことで明確な区別性が認められる。特に、開花開始時期については二次選抜では12月中旬(2003年)、三次選抜では1月(2004年)であるため、年明けを中心とした出荷に対応する必要がある。

以上の結果から、‘シルクボール’、‘ホワイトリップルピュア’および‘キャンディマイス’は鉢物向けマーガレットの多様性を確保するための花型、花色および草姿の点で有望であり、鉢物・花壇苗等の新しい需要を創出する効果があると考えられた。

## V 摘 要

鉢物用新品種, ‘シルクボール’, ‘ホワイトトリプルピュア’ および ‘キャンディマイス’ を育成し, 品種登録した. ‘シルクボール’ は, 小輪タイプの八重咲き白花で, 極わい性で鉢物向けの草姿で, 年内から開花開始する. ‘ホワイトトリプルピュア’ は, 極小輪, 一重咲きの白花で, わい性の鉢物向けの草姿で, 鉢物向けの草姿で株が広がりやすく, 開花開始時期が早く年内出荷が可能である. ‘キャンディマイス’ は, 極小輪, 一重咲きの赤みがかかった濃桃花で, わい性の鉢物向けの草姿で, 開花時期はやや遅い.

## 謝 辞

謝辞: 本試験の実施にあたり, 伊豆(現賀茂)農林事務所, 東部農林事務所, 富士農林事務所および静岡県東部花き流通センター農協の担当者および生産者諸氏のご協力を受けた. ここに記して感謝申し上げます.

## 引 用 文 献

- 1) Bramwell, D. and Z. Bramwell. (2001). Wild Flowers of the Canary Islands (2nd ed.). p.337~346. Editorial Rueda, Madrid
- 2) Bremer, K. and A. A. Anderberg. (1994). Asteraceae: Cladistics & Classification. p.435~478. Timber Press, Oregon.
- 3) Cheek, R. (1993). La Belle Marguerite. The Garden vol.118. part 8: 350~355.
- 4) 古里和夫. (1977). マーガレット. 新花き 95: 32~35.
- 5) 稲葉善太郎. (2004). マーガレット. p.19~23. 伊豆花卉連 50 周年のあゆみ. 伊豆花卉園芸組合連合会編集委員会. 静岡.
- 6) 稲葉善太郎. (2005). マーガレット新品種 ‘ホワイトトリプル’ の育成と栽培法. 静岡農試研報 50: 29~38.
- 7) 稲葉善太郎. (2009). 鉢物用マーガレット新品種 ‘チェリルマイス’ の育成と栽培株からの花色変異個体の獲得. 静岡農林研報 3: 9~14.
- 8) 稲葉善太郎. (2010). 鉢物用マーガレット新品種 ‘スイートトリプル’ および ‘サンデーリップル’ の育成. 静岡農林研報 4: 67~72.
- 9) 北村四郎・畑井昭一郎・藤田政良. (1988). キク属 (広義). p.24~30. 園芸植物大辞典. 小学館. 東京.
- 10) マーガレット種苗特性分類調査委員会. (1990). 平成元年度種苗特性分類調査報告書. 種類名: マーガレット. 農林水産技術協会. 東京.
- 11) 農水省生産局知的財産課. 2012. 品種登録. <<http://www.hinsyu.maff.go.jp/>>
- 12) Press, J. R. and M. J. Short. (1994). Flora of Madeira. p.1~7. 354~356. 514. Intercept Limited, Hampshire.
- 13) Sutton, J. (2001). The Plantfinder's Guide to Daisies. p.83~91. David & Charles Publishers, Devon.
- 14) 横井政人 (監訳). (2003). ARGYRANTHEMUM. p.134~135. A-Z 園芸植物百科事典. 誠文堂新光社. 東京



写真1 'シルクボール'の生育状況と花型



写真2 'ホワイトリップルピュア'の生育と花型



写真3 'キャンディマウス'の生育状況と花型